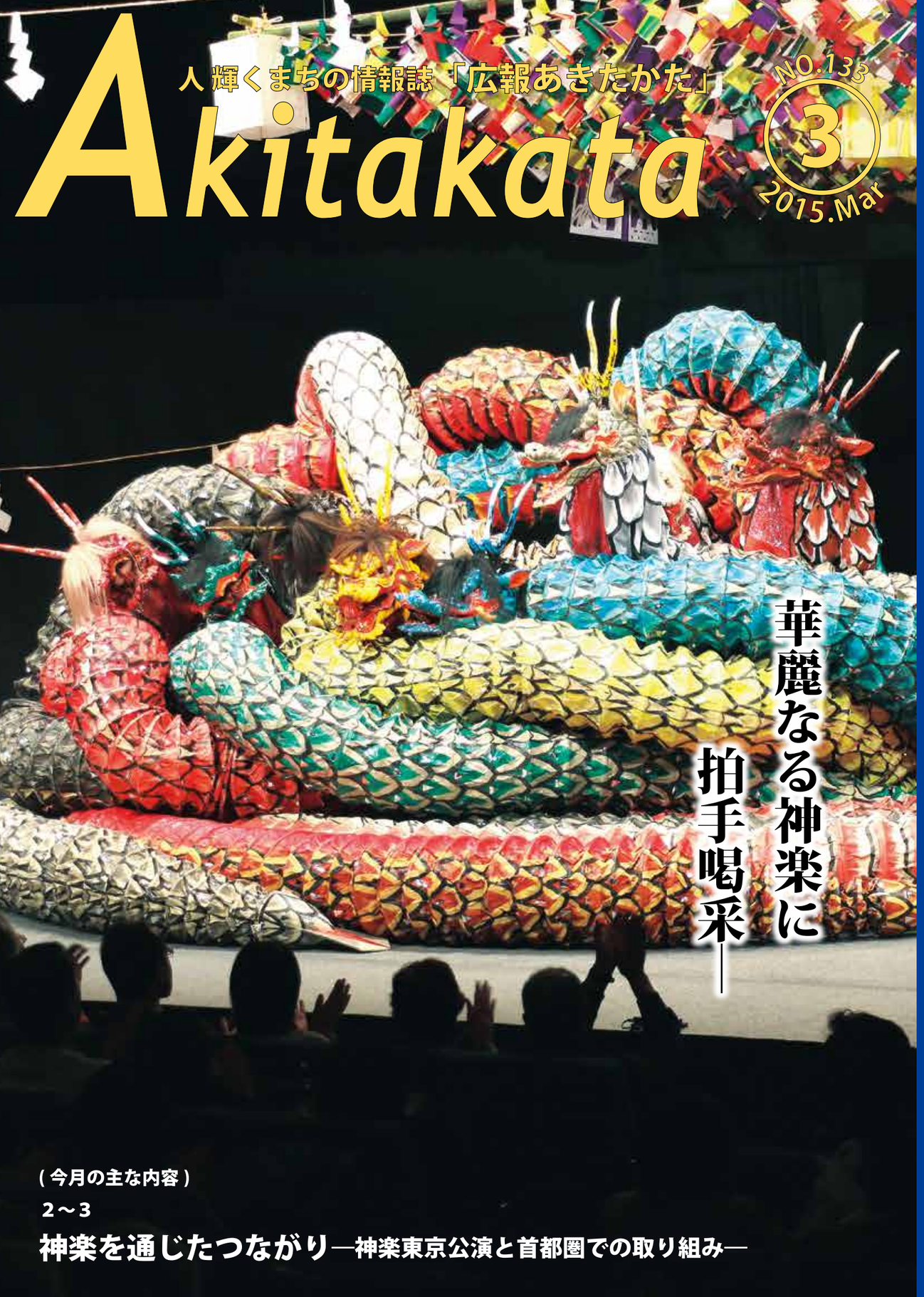
人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」
Akitakata
NO.133
3
2015.Mar



華麗なる神楽に拍手喝采―

（今月の主な内容）

2～3
神楽を通じたつながり―神楽東京公演と首都圏での取り組み―

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/

安芸高田歴史紀行

茶臼山城（ちゃうすやまじょう）《高原町長田》

【登城ガイド】
標高／243m、比高／70m
史跡指定／未指定
城主／不明
所要時間／東山麓から20分

茶臼山城遠望（東側より撮影）

周辺位置図

シリーズ「お城拝見！」第五十七回

安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員　秋本哲治

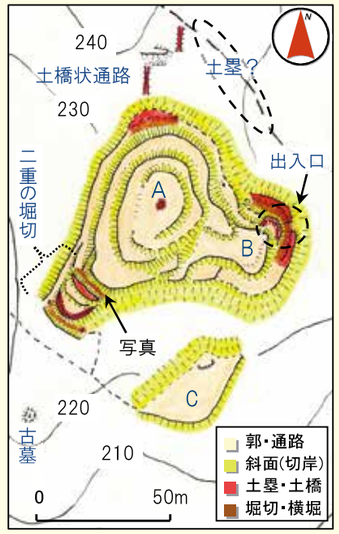
文献と城跡の遺構を結び付けるのはとても難しいことです。遺構の実態は発掘しないとわかりませんし、文献の信ぴょう性は疑ってみる必要があるからです。さらに、現在の遺構が造られた時期と文献に記録されている内容の時期が違う可能性もあります。しかし、その中でも何らかの関係性を探るのがお城の研究の醍醐味でもあります。

立地…第52回で紹介した円明寺屋敷から、谷を隔ててすぐ隣の尾根上にあります。それほど険しい地形ではなく、吉田と広島方面を繋いだ「豊島大道」という街道が麓に通り、水運が行われていた三篠川も見下ろす要衝に位置しています。

歴史…江戸後期の「芸藩通志」には城主は「武安某」とありますが、これは長田の領主であった内藤元泰の叔父の武安左近という人物を指すと思われます。永禄9（1566）年、毛利氏に降伏した尼子義久ら三兄弟は出雲から安芸へ護送され、12月に長田円明寺に幽閉されました。その監視役を担ったのが内藤元泰で、本拠城は田屋城といわれますが、長年にわたり住み込みで監視を務めました。

城跡…大規模な城とはいえませんが、郭Aを中心として同心円状に細長い郭が3重に廻っています。郭Bの東には土塁で防備された出入口があり、南西の尾根には二重の堀切が見事に残ります。また、少し離れて屋敷地のような広い郭Cや五輪塔が残る古墓もあります。なお北側には土橋状の通路があり、その先の谷には長い土塁状の謎の遺構があります。

考察…三兄弟の宿所に2重に柵を設けたという記録もあり、同心円状の構造と一致します。尼子三兄弟を幽閉した時期に武安左近がここを居城としていたとは考えにくく、地形的・位置的にもここが三兄弟に関係した屋敷地であったと思われます。ただし、幽閉以前から内藤氏に関係した城であった可能性もあります。



茶臼山城略測図（作図　秋本哲治）

鮮明に残る堀切（東側より撮影）

編集後記

年配の方のあいさつに出てくる〝まめ〟。「まめでがんす。」「まめくさしよぉ。」意味が分かったのは20代の頃。先日、職員同士で「もぐれる」「やねこい」「木のねき」などの言葉の意味が分かるか？という話になりました。私は当然わかりますが、若い職員は微妙。そういえば若い人同士の会話には方言があまりでてきません。広報は高齢の方との会話も多く、知らないと大変困ります。すぐ特訓したいと思います。

最後に「しわい」って広島市では使わないことにびっくり。（森本）

1月から、成田空港と神楽門前湯治村を結ぶ神楽鑑賞ツアーが始まりました。関東圏にお住まいの皆様にとって、なかなか見ることができなかった神楽を、本場の安芸高田市で鑑賞できるツアーです。多くの皆様が安芸高田市を訪れ、本市の魅力に触れていただければ幸いです。（田村）

今月の表紙▼

1月24日（土）、東京都千代田区の日経ホールで開催した「ひろしま安芸高田神楽　第4回東京公演」で、「八岐大蛇」を披露した桑田天使神楽団。迫力ある見事な大蛇に、観客は大きな拍手を送っていました。